

忠顯雅樂頭忠寶養子

右系引之通、續々相成申候、父<sub>茂</sub>養子、其身<sub>茂</sub>養子之時者、養父實方服忌無之儀に御座候、次者酒井備中守儀、當雅樂頭より者、祖父之名目無之儀より相心得罷在候、右ニ付備中守者養方大。叔父之續、實父方にては伯父之續備中守男子者養方從弟達、實父方にては從弟之續ニ心得候間可然候哉、此段奉伺候以上、

五月十日

酒井雅樂頭家來上田左太夫

書面并系引之通者、雅樂頭より備中守者養父之實方祖父之續、備中守男子者養父之實方叔父之續、其外養實之續書面之通に候、

〔諸例集五〕續唱方之儀ニ付問合

土屋紀伊守答

先々代志摩守嫡子主計頭病死仕候ニ付、同人嫡子隆之助を、志摩守嫡孫承祖ニ相願候處、右隆之助も病死仕候ニ付、同人弟準次郎を養子ニ仕、當志摩守ニ御座候、右ニ付而者、先々代志摩守末子爲吉儀者、當志摩守養子之譯を以、大叔父ニ相成實叔父之續ニ御座候哉、且先々代志摩守を當志摩守<sub>ル</sub>者、祖父と相唱候而可然候哉、續柄之儀奉伺候以上、

天保十二年閏正月十九日

松前志摩守家來遠藤又左衛門

書面之趣、別紙系引之通ニ而者嫡孫承祖之者之養子ニ付、祖父ニ而も曾祖父と相唱、叔父者大  
叔父之續ニ相成候、

草廣志摩守

見廣死

主計頭